

総合教育センターだより

128号 令和2年3月発行 山梨県総合教育センター

「平和を築いていける子供たちの育成のために・・・」

山梨県総合教育センター 所長 佐野 修

米国の科学誌が発表している終末時計が、1947年の開始以降最短となった。地球滅亡までの時間を示す時計の針は、昨年の2分から20秒進み、残り100秒となっている。今までの最短は、米ソの核軍拡競争が加熱していた1953年と、近年の北朝鮮の核開発による2018・2019年の2分。30年ほど前、東欧の民主化と冷戦の終結、その後のソ連崩壊等により、17分まで針が戻った時、これで世界は、少しずつ平和に向かうのでは？と思ったが、現在は、それよりも危機的な状況になっている。米露の中距離核戦力全廃条約が失効するなど、核の脅威が高まっていること、地球温暖化に対する対策の遅れなどがその理由という。



さらに世界各国においては、政治や経済、貧困、環境、感染症、民族等に係る多様な諸問題が当該国内や地球規模で表面化し、国境を超えて様々な影響が及ぶ状況は、ますます深刻化してきている。しかし、そのような中であって、昨年は、若者がこのような問題に対して発言、主張を行い、具体的に行動する動きが目立った1年であった。彼らのアクションは、国内の同世代の若者に留まらず、国や世代を超えた多くの人々からも共感を得て、その行動に大きな影響を与えている。スウェーデンの環境活動家のグレタ・トゥーンベリさんばかり、香港民主化運動リーダーの大学生、黄之鋒氏や周庭さんばかり。

では、日本はどうか。例えば、大学入学共通テストの中止を求めて高校生が署名活動を行い、全国から4万2千人分を集めて文科省に提出したことは、これまでなかったことである。グレタさんが一人で座り込みを始めた地球温暖化への抗議活動でも、日本では昨年9月、全国24カ所で高校生も含む約5千人がデモなどに参加したという。

疑問を感じた時、一人一人が声を上げていくこと。それに対しては、少数意見であっても、その声に耳を傾けて考えてみる。そして一人一人が多様な考えや意見を交換し合い、組み合わせたり修正したりしながらより良い方向を探求していくこと。このことが、民主的で平和な世界を築く基本であると思う。不安定で危うい、終末まで残り100秒の世界だが、民主主義や平和に貢献できる子供たちの育成に向けた教育活動、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善などを、一步一步進めていきたい。



「山梨県総合教育センター研究大会」を終えて

教育研究推進幹 笹本 忠彦

天候にも恵まれ、2020年2月20日（木）「山梨県総合教育センター研究大会」が、県内外から300名以上の教育関係者にご参集いただき、無事開催できましたことに対し、心より感謝申し上げます。特に県教育委員会をはじめ、山梨大学、教育事務所、博物館等より多くのご臨席を賜り、盛大に研究大会が挙行できましたことは、本センター職員にとって、この上ない経験となりました。

また今日教育課題である「学校現場の多忙化改善」を考慮したタイトな半日日程の中、「特別講演・ポスター発表・ラウンドテーブル」と滞りなく開催でき、「教育への熱い思い」を全体で分かち合える有意義な大会となりました。参観者から、「センター研究が学校現場の実践につながっていることが分かった」「研究協力校を真剣に考えた」「校種を越えた意見交換は、山梨の教育課題を再認識する機会となった」等の感想を多数いただき、今後につながる貴重なご示唆として、来年度以降の研究・大会運営に生かしていきたいと思っております。

今後も、本センターが「教育研究・学校支援・教育情報収集・提供」の機能連携による「知の拠点」としてのシンクタンク機能の更なる充実を図るために、「新しい研究・研修(New style)」を全職員で推進していきたいと考えています。ご協力をお願いいたします。

研修指導課

令和時代の「学び続ける教師」を目指す：「すべては 子供たちの未来のために！」

時代が令和に移行した今年度、教育界にも新たな扉が開かれました。「新学習指導要領」実施が始まる中、「山梨県教育大綱（山梨県教育振興基本計画）」の策定など、国及び県の新たな教育施策を受け、私たちも「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業力を中心に、教員として各ステージに求められる資質能力向上を目指すことが求められています。研修指導課では、今年度は先生方を支援するために次の2点に主眼を置いて研修を実施してきました。

(1) 「やまなし教員等育成指標」（平成29年11月策定）に基づいた研修体系の整備

◇ ステージ1～3の「あるべき姿」に向け研修受講で資質能力向上を目指す。

☞ その結果次のような成果が得られました。

○ 延べ受講者数増加 13,285人（H30） → 14,452人（R1）

○ 受講者満足度向上 92.0%（H30） → 93.1%（R1）

(2) 「やまなし学び続ける教師のためのポートフォリオ」の運用（平成31年4月）

◇ 自身の「受講履歴」確認と「ポートフォリオ」への記入により、教員としての自身のキャリアを俯瞰し、研修を通して「授業力」「教師力」向上を目指す。

☞ その結果、12月に県内の先生方7,151人を対象に行ったアンケートによると、回答者4,332人のうち、「ポートフォリオ」を「使っている」が4.9%、「使ったことがある」が12.1%、「見たことがある」が59.9%であることがわかりました。さらに多くの先生方に様々な場面で活用していただけるよう引き続き改善していきます。

また、令和2年度には、新たに「**初任者研修の弾力的実施**」による「**若年期（ステージ1）教員の研修体系構築**」を行っていきます。校内研修及び校外研修の弾力的実施により、総合教育センター等での研修と合わせ、各校内における実務研修（OJT）の充実を目指します。

いずれも内容・体系を改善しながら、山梨の先生方に「学び続ける教師」として資質能力向上を支援する研修を提供することを目指しています。先生方はそれを校内で還元し、「生きる力」を児童生徒に育むことを目指した教育の推進に努めていただきたいと思います。令和2年度も本センターの研修会を活用してください。

調査研究課

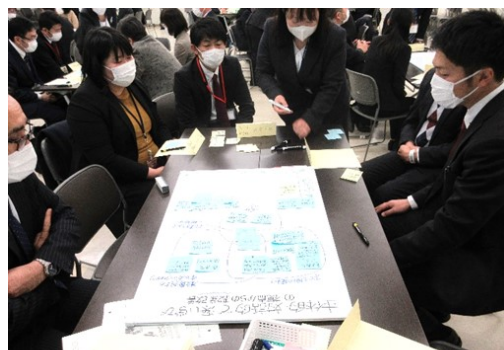
昨年からのグループ研究も軌道に乗り、「授業・学校づくり、情報教育、教育相談、特別支援教育」の4つの領域ごとに全指導主事がチームを組み、研究協力校と連携し実践的な学校支援を推進して参りました。具体的には、実践的研究が推進され、指導主事としての専門性を高めながら、学校訪問での指導助言、研修会の企画、講義や演習の充実に結び付く研究をすることができました。さらに、この協同研究は、5月に総合教育センターで開催された関東地区教育研究所連盟山梨大会でも関心を持っていただき、県内外に先駆的な範を示したと思われま

す。その推進には、山梨大学との連携が大きな原動力となっております。大学教育実践総合センターの先生方も増員され、アドバイザーとして指導案検討や拡大校内研での助言等、随所に指導主事を支援していただき、この協同研究が円滑に推進できましたのも、連携のおかげだと実感しております。

令和2年度も、本センターが、山梨教育の「知の拠点」としてシンクタンク機能を活用させ、今日的課題である「主体的・対話的で深い学び」の具現化等、教育課題の解決に向けて研究協力校との協同研究を推進していきます。本センターの全指導主事が関わりながら、教職員の教育力向上を支援するために、授業改善の方向性や指導モデルの提示等ができるよう、さらに実践的な校内研究支援に取り組んでいきます。



センター研究大会 ポスター発表



センター研究大会 ラウンドテーブル

相談支援部

～子供や保護者、学校関係者への充実した相談・支援活動を目指して！～

今年度も、電話・面接による相談がたくさん寄せられました。そして、その一つひとつの相談に真摯に向き合ってきました。私たちは、様々な課題を抱える幼児児童生徒の健やかな成長を願い、本人、保護者、学校と先生方を支援しています。

【教育相談】

不登校・学習・友達関係・いじめ等の問題について相談を受け、その解決のための援助を行っています。児童生徒・保護者及び先生方を対象とした面接相談や電話相談（365日24時間体制で対応）、学校に向向いての学習会やケースに関する相談にも応じています。また、いじめや不登校等の予防や解決に生かせる研修・研究を行い学校教育活動の支援に努めています。

【特別支援教育】

障害があったり、発達に課題があったりする幼児児童生徒の教育の充実と支援を行っています。本人、保護者及び先生方などを対象とした面接相談や電話相談、学校に向向いて学習会を実施しています。また、特別支援教育の現場に役立つ実践的な研修・研究を行い学校教育活動の支援に努めています。

【適応指導教室】

平成30年度末に葦崎教室、令和元年度末には都留教室が閉室となりました。こすもす教室は、来年度、石和教室1か所となります。不登校が続いている児童生徒の心の居場所づくりを第一に考え、人間味のある温かい運営を基本に、自立に向けた適応指導や学習指導を行っています。保護者や教職員からの相談にも応じています。

情報教育部



ICT活用能力・ICT活用指導力向上の取組

今年度は、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るICTの効果的活用と教職員のICT活用指導力の向上を目的とした研修会を、24講座延べ26回開催し、延べ約640名が受講されました。「プログラミング教育」に関する校内研修や学習会・研究会の要請訪問は25回延べ500名超が参加されました。今後も、全国の動向や最新機器の活用等の情報を収集して研修内容の充実を図るとともに、ICT機器展示会等を通して、ICT環境の整備と活用の普及啓発を続けていきます。

やまなしeラーニング（YeL）の充実

YeLの運用では、広報活動の促進、研修内容とコンテンツの関係性の強化、自主研修や校内研修に活用できるコンテンツの増設等に取り組み、さらなる研修の充実と効率化、利便性の改善を行っています。今後も利点を最大限生かすための工夫改善を図っていききたいと思います。

センター研究：情報教育に関する研究

情報教育に関するセンター研究では、研究協力校の協力を得ながら「ICT機器を活用した授業改善へ向けた支援」について研究を進めて参りました。過日行われたセンター研究大会では、ICT機器活用と学習指導についてその成果と課題を発表しました。

学校の情報化推進のための基盤整備と支援

グループウェア、教育情報ネットワーク、校務処理システム等の運用管理や各学校における情報教育・ネットワーク担当者の養成研修をはじめ、情報教育に関する相談業務を通して、業務の効率化と教育の情報化を支援しています。また、ハイユースPC等の更新作業および新ネットワークシステムの強靱化作業を支援しています。ご不明な点はお気軽にご相談ください。

「研究大会特別講演」

山梨県立図書館長である、金田一秀穂氏（杏林大学外国語学部教授）による「特別講演」が、「言葉と教育」と題し、約300名の県内教育関係者にご参加いただき、開催されました。

先生のユーモアあふれるお話に惹き込まれ、時間が経つのを忘れるほどでした。講演の中では「言葉は考える道具である」という、教育関係者が改めて「言葉」の大切さを認識する金言をいただき、すぐに授業に生かさずとも、納得・共感でき、新たな視点を得る講演になったようです。また、「教師は、義務として幸せであるべき」「楽しめなくなったから辞めるべき」という重い言葉に、励まされ、気持ちを奮い立たせた先生方も多かったようです。

今後も総合教育センターでは「やまなし 学びの未来～すべては目の前の子供たちのために～」という本研究大会のテーマを心に刻み、山梨の子供たち、先生方のために邁進していきたいと考えています。ご協力をよろしくお願いいたします。



1年間の研修を終えて

2019年度一般留学生 赤尾 若菜

国語の学習において「考えを広げ深め形成する力を育てる指導」について研究を行いました。児童の思考を促す手立て、評価、教材である「やまなし」等について、じっくり文献を読み、考え、多くの先生方のご指導をいただくことにより、これまで以上の気付きと学びがありました。また、今日的な教育課題についてセンターの様々な先生方がお話くださった先端的な講義は、自分の視野を広げる機会にもなりました。今後は学んだことを実践を通して還元しながら、さらに研究、研修を積んでいきたいと思っております。ご指導いただいた指導主事の先生方、協力校、協力員の先生方に感謝申し上げます。

留学生の声

研修での学びを生かして

2019年度一般留学生 野呂瀬 陽子

「何のための学習なのか目的の見えない国語の授業」これが私の大きな課題でした。そこで子供たちが教材を通して学んだことを表現に生かそうとする姿を目指す「自ら表現しようとする児童の育成」の研究を行いました。先行研究を学び、仮説を立て検証するという研究の理論と方法について時間をかけて学べたことは大きな財産です。また、様々な研修会、指導主事の先生方の講話会を通して今日的な教育課題を改めて考えることができました。今後はさらに研鑽を積み、研修の成果を学校現場での指導に生かしていきます。最後にセンター指導主事、研究協力員、研究協力校、温かくご指導いただいた先生方に心より感謝申し上げます。

本県学校教育の推進者として

調査研究課一般留学生担当

「研究テーマ等について進んで研究、研修を積み、本県教育の推進者として教育研究の理論と方法を身に付け、教育専門職としての資質を高め、本県教育の振興に資する」ことを目的に、今年度も2名の一般留学生がそれぞれの教科・領域等に関わる研究を行うとともに、教育に関する今日的課題について学びました。研究協力校・研究協力員、指導主事にご協力いただき、有益なご指導・ご助言により、無事に1年間の研修を終えることができました。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。一般留学生には今回学んだことをさらに発展させ、所属校や研究会等における実践・発表を通して成果を還元し、本県教育の発展に寄与されることを期待します。

令和2年度研修会申込手続きについて

令和2年度研修会申込事務説明会

日時：令和2年4月9日(木) 受付 13:20～13:40

説明会 13:40～16:40

場所：山梨県総合教育センター 大研修室

各校の研究主任（研修担当）の先生方を対象に、令和2年度に行われる研修会の申込の仕方について説明を行います。昨年度より運用開始となりました研修履歴票の作成や活用の仕方についても説明を行います。

【注意】新型コロナウイルス感染症対策のため、実施方法の変更等も考えられます。その場合は、本センターホームページにて連絡しますので、ご確認ください。



YAMANASHI PREFECTURAL
EDUCATION CENTER

編集発行 山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田1456
電話 055-262-5571
Fax 055-262-5572
発行責任者 所長 佐野 修
発行日 令和2年3月17日